

KSKS

No. 134

24. 12. 28

ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円
年間 300円

- | | |
|--|--|
| ◆法人からの報告
「ゆいの会運営協議会開催」
理事 大田 雅子 ... 1 | ◆Reports
きらく舎／ぼすと ... 4
地活歩っと／こもれび就労 ... 5
D-PORT ... 6 |
| ◆Reports
◇天理市「にも包括」研修 ... 2
◇ひまわり合同学習会 ... 2
◇さっこり展 ... 3 | ◆Thanks
後援会費納入者・寄付のお礼 ... 6 |

地域の中で果たすべき役割とは

ゆいの会運営協議会開催

関係機関やご家族、利用者等から、法人の運営に関する意見を聞く場として、11月21日に運営協議会を行ないました。委員として、奈良市社会福祉協議会や精神障害者家族会「ともしび会」、天理市の地域包括支援センターから計3人にご参加いただきました。

理事長から、

- ・就労継続支援B型事業所が周辺に数多く設立されていく中で、ゆいの会のB型事業所がどんなことを特色としていくのか、ソーシャルワーカーを配置する意味、人員不足による運営の難しさが課題としてある
- ・いろいろな事業が増え、支援が細分化されていく中で、支援の切れ目の課題がでてくるが、どう有機的な連携を考えていけるか
- ・入院から地域生活への流れの中で、退院支援委員会などの機会に地域の支援者が呼ばれることは少ないと感じている。精神科医療の連続性の中で、私たちだけでは解決しない問題もあり、連携が課題など、日ごろ感じている課題について報告しました。

参加委員からは、

- ・法人後見はやっているか。法人後見をやることで法人としての社会的な役割として示すことができる面も大きいと感じる
 - ・精神科医療との連携について、在宅医療連携支援センターが医療と介護の連携の研修をしているが、精神分野は入っていない。法制度の違いはあるかもしれないが、高齢分野だけでなく、呼びかけていく必要がある
 - ・家族としては、病院にしても事業所にしても、見極めながら考えていかないといけないが、病院については、空きがなく気軽に選べないという問題も大きい。それぞれの実態を家族も知っておかないといけないと感じた
- 等、地域における幅広い視点での議論がなされました。
(大田雅子)

法人の動き

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 11月21日 | 運営協議会 |
| 12月7日 | 職員1日研修
(個人情報保護規定について、BCP他防災に関する研修) |
| 12月12日 | 永年勤続表彰式(2名を表彰) |
| 12月21日 | 第3回理事会 |

Reports

天理“にも包括協議会”企画 令和6年度の精神保健福祉研修会

天理市では『精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム（略称：にも包括）構築にむけた協議の場づくり』を令和6年度から始めています。地域活動支援センター／相談支援事業所こもればは今年度、協議会運営の事務局を担っています。

協議会の運営方法、活動内容については運営コアメンバーが手探りで進めていますが、令和6年度は6月から10月にかけて全4回の研修を行ないました。同システムが志向している①保健予防 ②医療保健 ③生活支援 ④地域共生 を念頭に、天理市における精神保健医療福祉の相談や制度・サービス利用状況の共有、精神疾患や精神障がいの特徴の理解や関係機関連携の促進などが目的です。

研修会には、市内の地域包括支援センターや居



宅介護支援事業所、健康増進課や福祉政策課、医療機関の地域連携室職員、教育機関の心理カウンセラー、障害福祉サービス事業所の職員等の参加

がありました。

令和7年度は、自立支援協議会精神障害者部会で抽出してきた支援困難な事例を共有し、支援者の悩みを軽減したり、ケースの課題の解消に向けて検討していくことを予定しています。（泉水宏仁）

開催日	テーマ	参加者数
6/26(水)	メンタルヘルス・保健センターの取組	42人
7/24(水)	精神疾患と治療～回復とケア～	44人
9/25(水)	疾患による生活の困難さ(障害)	31人
10/30(水)	にも包括ケアシステムの概要 天理市の精神保健・医療・福祉の実情	29人

◀ 9月開催の第3回研修会。“疾患と生活障害”をテーマに

Reports

「地域で元気に暮らしています」

ひまわり医療従事者学習会

精神障がいのある人の地域移行を考えるグループ「ひまわり」は、11月25日（月）、吉田病院と五条山病院、ひまわりメンバーの所属する地域の事業所4カ所をオンラインで繋ぎ、医療従事者を対象とした学習会を開きました。2病院合同での企画は初めてです。医療従事者18人とひまわりメンバー21人が参加しました。

これまでも「ひまわり新聞」を定期的に発行し、ひまわりメンバーが地域での暮らしについて発信したり、昨年は5年ぶりに五条山病院入院者とオンラインを用いた交流会を開催することもできました。

今年度は退院支援のために地域での暮らしのイメージを持って欲しいと医療従事者向けの学習会を企画しました。ひまわりメンバーは、「病院の方は入院中のしんどい自分たちの姿しか知らないと思うので、元気に地域で暮らしていることを知って欲しい」と話します。

まずは、2人のひまわりメンバーが体験談を発表



しました。「退院は諦めていたが、主治医が家族に退院を説得してくれた」「元気に颯爽と暮らしたいと退院後を思い描いていた」「通所事業所に通ったり、ヘルパーさんに家事を手伝ってもらったりして暮らしている」など、入院中の思いや退院後の暮らしが語られました。

その後は、NPO法人あず、NPO法人ふあ～ちえ、サポートセンター夢、ぼすとが事業所紹介をしました。事業所内をカメラを持って移動しながらの映像による案内、説明は、作業や食事の様子などふだんの活動の1コマが伝わりやすく好評でした。

医療従事者からは「地域での暮らしを長く続けられているのは、目標や思いがあるからなんだと知ることができた」と感想がありました。（慶伊里衣子）

◀ パソコンの向こうへ体験談お届け中

さわやぎ

もっと活動を知ってもらう場に ～第24回さっこり展開催～

毎年恒例となったさっこり展を11/17(日)を除く、11/13(水)～19(火)までの6日間行ないました。24回目となった今回のテーマは、「さわやぎ～ぼくたち、私たちの居場所～」です。来場者は約60人でした。

◆開催意義の確認

メンバーが作ったさをり織りの作品の展示・販売を目的に始めたさっこり展。ここ数年は、織りなどの創作活動をするメンバーが減ってきたこともあり、7月時点でメンバーに開催の意味についてアンケートをしました。「さわやぎの恒例行事」「作品を見てもらいたい」だけでなく、「さわやぎのことを地域の人にもっと知ってもらいたい」という意見があったことをきっかけに、今回は、改めてさわやぎでは何をしているのか、“自分たちの居場所”についてさっこり展で発信することにしました。

▶ たくさん手に取ってもらいました



◆にぎわったさっこり展

初日から多くの人々が来場し、にぎやかでした。メンバーや関係者だけではなく、「去年も来させてもらった」「この近くを歩いていて気になっていた」など地域の人も来てくれました。

▶ クッキーやかりんとうの販売も好評でした



毎年来てくれる人を楽しんでもらえるように、メンバーの織りの作品や編み物、古布の作品だけでな

く、今回は主にバッグの縫製でお世話になっているカフェFUWARI(西大寺赤田町)に協力してもらい、そこで販売している着物や帯を使った服やバッグ、お菓子も置くことにしました。例年通り、ぽすとのコッキーとバームクーヘン、ボランティアの作ったこけ玉とお米の販売もしました。



◀ 活動紹介用にパネルや写真を展示

◆「知ってもらう」取り組み

さわやぎのふだんの活動を知ってもらうために、階段や廊下に写真を展示しました。来場した法人外の福祉サービス事業の職員や利用者、社会福祉協議会の職員にもさわやぎの活動を知ってもらうことができ、さわやぎの新規利用につながるかもしれません。土曜日の開催日もあったため、平日は忙しい家族の人に来てもらうこともできました。

◆さっこり展の今後

かつてはボランティアの方に織りの先生を担ってもらっていましたが、現在はスタッフがどんな作品を作るかの相談、織り機の準備、作業のアドバイス等に対応しています。メンバーとスタッフだけでは行き詰まりを感じており、織りに取り組むメンバーが減っている現状もあります。「作品を見てもらう」だけでなく、「さわやぎを知ってもらう」「さわやぎに興味を持ってくれる人と触れ合う」という目的も大きくなってきています。

第24回は大盛況で終了しました。「お互い元気で過ごして、また来年会いましょう!」とお客さんとかわした約束を果たせるように日々の活動を行なっていきたいです。

来場してくれた皆さん、ありがとうございました!
(中島美保)